

# フォーラムでの意見(環境)

## 取り組んで良かったこと

### 節電の取組

- ・エアコン使用を控えた。(扇風機、外断熱、二重サッシ、窓を開ける。)
- ・使っていないコンセントを抜いた。
- ・トイレのフタを必ずする
- ・室内の照明は、必要以外は消灯
- ・電気ポットをやめた。
- ・湯たんぽ活用
- ・白熱電球→蛍光灯。
- ・電気ポット1回で電源切る。
- ・全部お茶にしてペットボトルを4本つくっている。
- ・電気ポットの給湯の温度を下げる。
- ・掃除機を使う回数を減らし、掃除用具をうまく使う。
- ・冷蔵庫内にビニールカーテン。
- ・冷蔵庫に必要な材料のみ入れて、一週間内に処理する。
- ・省エネナビをつけて、電気の使用状況が分かった。
- ・電源をこまめに切る。
- ・生活スタイルの改善、入浴時間等
- ・緑のカーテン(ゴーヤ)を育てた

### 節水の取組

- ・洗面器で顔を洗う(流し放しを止める)
- ・食器の油汚れをとってから水で洗う
- ・水流量のバルブを1回転しめた。
- ・ペンスルの太さの水量。十分に洗えます。
- ・風呂の残り湯の活用(洗濯・水やり)
- ・トイレを節水型に換えた。
- ・冷蔵庫を節電型に換えた
- ・米のとぎ汁活用(土に、掃除に、EM活性)
- ・雨水タンク設置
- ・野菜を洗った水をバケツに溜めておく。庭に撒く。

### ゴミの分別

- ・ミックスペーパーに出す。
- ・家で洗えるものは、クリーニング屋に出さない。
- ・買い物の際、袋を断る。
- ・エコバックをいつも持参する。
- ・マイ箸の使用
- ・段ボールコンポスト
- ・飲み物をリユースカップで持って行った。
- ・情報はPCで、紙チラシをもらうこともさける

電源をこまめに切る、冷蔵庫にビニールカーテンなどは、効果が不明だけど行っているという声があった。

### 上手な買い物

- ・LEDに換えた。
- ・白熱電球→蛍光灯。
- ・防犯灯をセンサーライトにした
- ・高効率のエアコンと冷蔵庫に買い換えた。

## 取り組めない理由

- ・緑のカーテン  
→暗くなると中で電気をつければ同じ。
- ・LEDが高くてできない
- ・太陽光発電が団地なので、出来なかった。
- ・パック・キャップ等の回収  
たまりすぎる
- ・風呂の保温・シャワー使用  
→家族間の生活スタイルの違い  
(深夜帰宅・早朝出勤)
- ・車の運転で停止中にエンジンを切る  
→めんどうだからできない。
- ・生ゴミの処理  
→庭で消化ができる場所が無い
- ・生ゴミ分別  
→マンションでディスポーザーを使用
- ・門燈を消した。  
→外が暗くなった。
- ・門燈を太陽電池の灯りに代えた  
→明るさに問題あり。

## 多くの区民が取り組むためには(アイデア)

### 講座・勉強会

- ・節水・節電の方法をPR。講座・勉強会
- ・実施データのグラフ見せる。やる前とやった後。
- ・CCセンターの推進員による実践講習会。
- ・ゴミ分別の講座を生活環境事務所主催で実施。
- ・地域で活動している環境団体に講習会を開いてもらう。
- ・こわれたものを修理するルートがわからない。
- ・資源問題や温暖化問題を一般の人に知らせて一緒に考えてもらう。(勉強会など)
- ・動機づけと課題提供の学習会、研修会を地域で(中学校区単位)

### 啓発

- ・小学生・中学生への教育は大切。家族で話し合える一生の考え方になる。
- ・親から子ども達に教える。(出来れば学校でも)
- ・学校教育で、しっかり取り組む。

### 広報

- ・テレビの広告。CO2削減の必要性を訴える。
- ・エネルギーがなくなること伝える
- ・先人の知恵をマンガ形式で市民への広報誌に載せる。
- ・町会、自治会、敬老会等に節電をお願いする。宣伝する。報告する。

### 地域で取組を広げていく

- ・町会・自治会の集会でPR。(お話し会) ・普及・宣伝する場を設ける。グループ・町内の経験者をリーダーにして。
- ・効果をご近所で(取り組んで良かったことを)教えあう。
- ・地域内(町内)でまめに情報交換をする。・リサイクルが身近な地域とする。

様々な取組を行うことによって、実践的な取組を増やす。講座などで実践的な取組を紹介する。

### 実践的な取組事例の意見

- ・電灯消し(寝る時)“指さし呼称”(指でチェック) ・家族がお互いに注意し合う。
- ・出掛ける時TV・クーラー・トイレの電源を切ったか確認している。
- ・過剰包装の商品は、包装を店に置いていく。 ・捨てる前にリサイクルに。
- ・夏はシャワーにする。 ・コンセントをこまめに抜く。・緑のカーテン。窓、ベランダ等網戸と併せて使用
- ・風呂の湯を沸かしたら電源を切る。なるべく暑い時に入る。
- ・公共交通を使用する。 ・太陽光発電を広めていく。 ・生ごみリサイクルできる取組み、仕組み
- ・プラスチックの分別収集 ・電気使用料の前年比を確認する。確認表の保存。

### 区民会議の趣旨と外れるため参考意見

- ・太陽光発電。価格を下げる。補助金をあつく。 ・エネルギー源に対し公平に扱う。官民共(電気・ガス・石油)
- ・エネルギーに関する諸法律の見直し。(撤廃を視野に)

フォーラムの意見集約

### 講座・勉強会

家庭からのCO2削減に取り組む動機づけとなるように、学習会や講座などの実施

### 啓発

家族でCO2削減に取り組めるよう、家庭内で話し合える環境作り

### 広報

講座・勉強会と合わせて、CO2削減に取り組む動機づけとなるような広報

### 地域で取組を広げていく

ご近所で取組について情報交換や教えあうような地域での取組を広げる

# 報告書骨子案(環境)

## 報告の方向性

### 現状と目的

- より良い環境を次世代へと繋げていく取り組みを推進する。
- 区民の参加と協働の促進を図り、身近なエコに取り組む多摩区を目指して「家庭からのCO2の削減」を推進する。

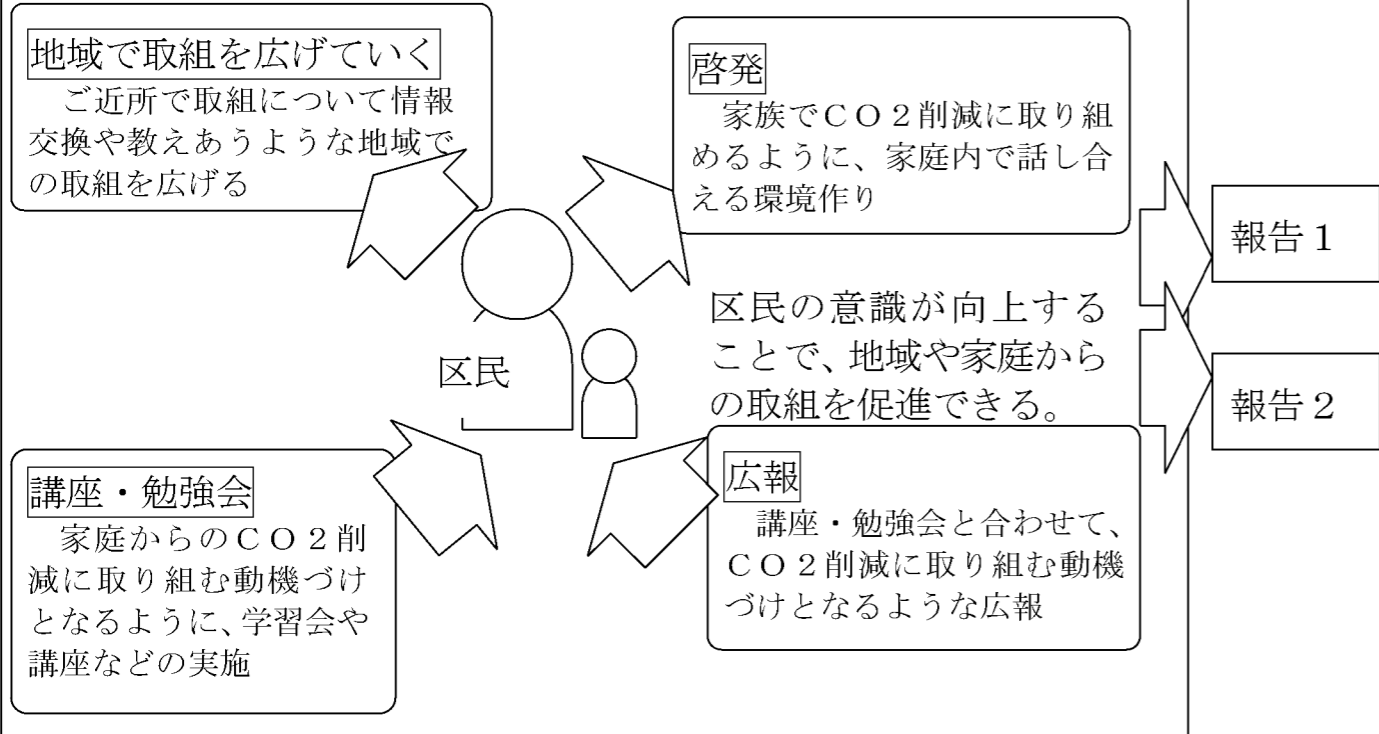
### 検討の経過

- 川崎市地球温暖化防止活動推進センター(以下CCセンター ※1)の取組についてヒアリング
- 地球温暖化防止活動推進員(以下推進員 ※2)との打ち合わせ
- フォーラムで家庭からのCO2の削減について意見集約を行った。

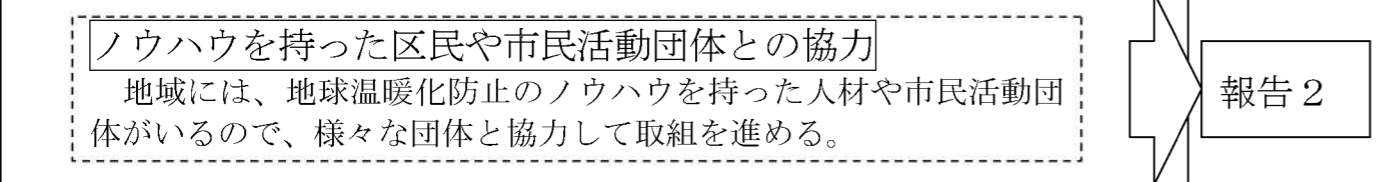
- ※1 CCセンター：推進員をはじめ、市内の地球温暖化防止に関わる様々な団体(市民活動団体、事業者、行政等)と連携し、温暖化防止に向けた実践活動や普及啓発活動を支援、推進する。
- ※2 推進員：推進員はボランティアとして活動を行う。活動内容は、地球温暖化防止のための実践、実践活動のアドバイス、普及啓発活動、各種施策への協力などを行う。

### 検討の内容

#### フォーラムでの意見集約(詳細は、資料2-1)



#### CCセンターの取組についてヒアリング、推進員との打ち合わせ



## 報告案

### 報告案1 区民の環境に対する意識の向上について

#### ○取り組む動機づけとなるような講座や勉強会の実施

家庭からのCO2削減を行っていくためには、まず取組の主体となる区民の意識向上を図り、具体的に取り組む動機づけとなるような、講座や勉強会などを実施する必要がある。

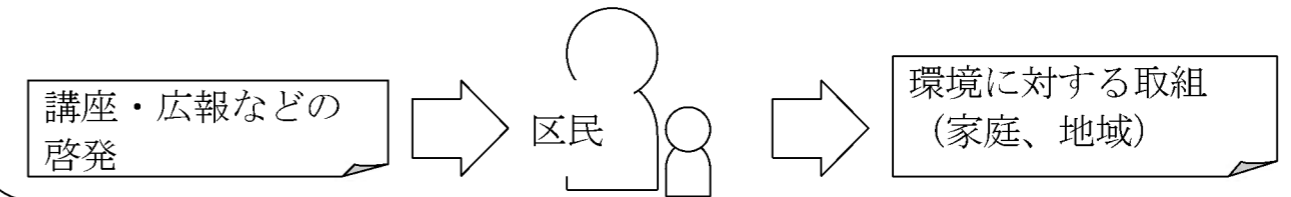
#### ○効果がわかる(効果が見える)取組の実施

取組を実施する動機づけとするために、講座等の内容は、家庭で取り組みを行うとどういった効果があるかを学ぶことや、体験しながら効果が学べるような取組を実施することが必要である。

(取組例) 身近な生活の中でどのような事を実施すれば、どの程度のCO2を削減できるか取組事例の紹介や、家庭でどの程度環境負荷が発生しているかを記録する環境家計簿など具体的に数字に示せる取組を実施する。

#### ○継続的な取組について

家庭や地域で広げていくためには、区民一人一人の意識向上が必須なため、環境の取組を実施する動機づけとなるような講座や、効果が見える取組を継続的に実施する必要がある。



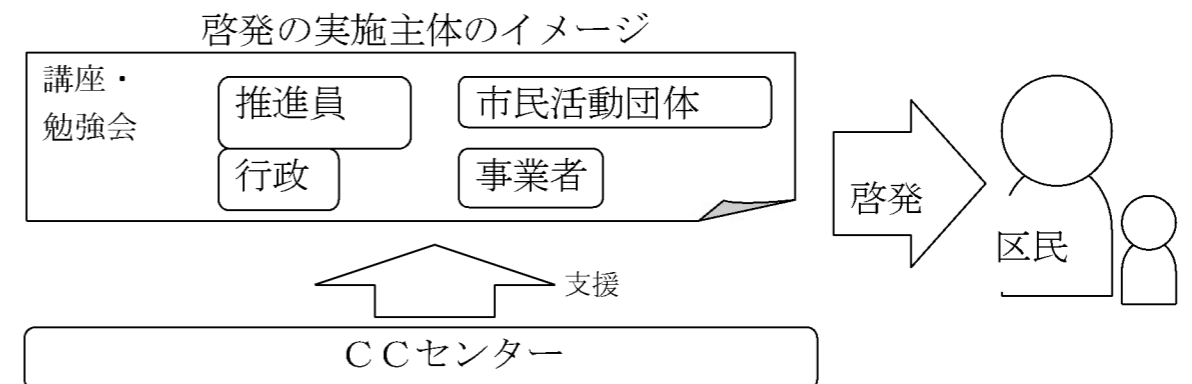
### 報告案2 多様な主体が連携した啓発について

#### ○専門的な知識を持つ各団体が連携した取組の実施

効果的な環境に対する取組を実施していくには、温暖化対策ノウハウを持つ、推進員、市民活動団体、事業者、行政が連携して実施していく必要がある。多様な団体が連携をして取組を実施することで、団体同士の連携が活性化されていく。

#### ○CCセンターとの連携について

CCセンターは、各団体と協力して温暖化防止に向けた実践活動や普及啓発活動を支援、推進する目的で設置されている。そのため、推進員、市民活動団体、事業者、行政など、それぞれが持つノウハウを効果的に発揮していくためには、CCセンターの支援が必要である。



# 報告書骨子案(環境)

## 報告の方向性

### 現状と目的

- より良い環境を次世代へと繋げていく取り組みを推進する。
- 区民の参加と協働の促進を図り、身近なエコに取り組む多摩区を目指して「家庭からのCO2の削減」を推進する。

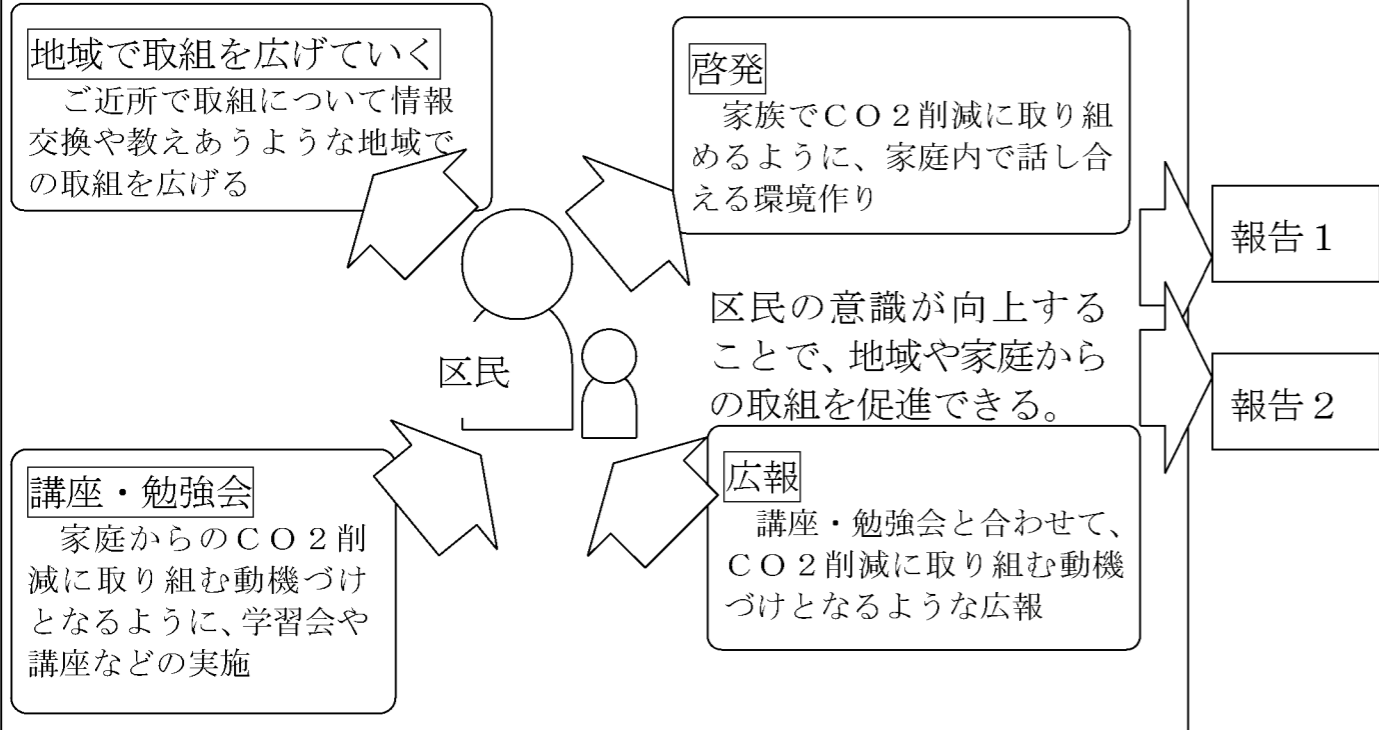
### 検討の経過

- 川崎市地球温暖化防止活動推進センター（以下CCセンター ※1）の取組についてヒアリング
- 地球温暖化防止活動推進員（以下推進員 ※2）との打ち合わせ
- フォーラムで家庭からのCO2の削減について意見集約を行った。

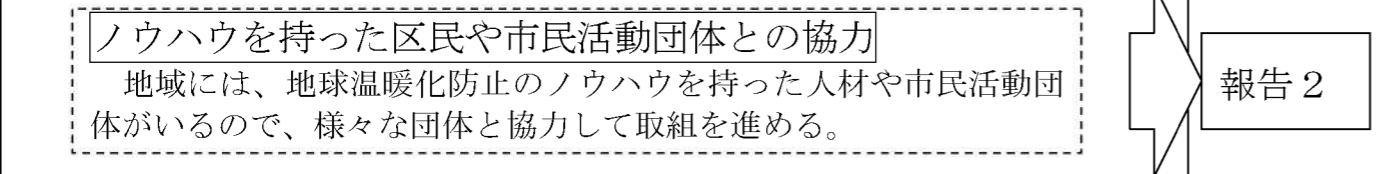
- ※1 CCセンター：推進員をはじめ、市内の地球温暖化防止に関わる様々な団体（市民活動団体、事業者、行政等）と連携し、温暖化防止に向けた実践活動や普及啓発活動を支援、推進する。
- ※2 推進員：推進員はボランティアとして活動を行う。活動内容は、地球温暖化防止のため実践、実践活動のアドバイス、普及啓発活動、各種施策への協力などを行う。

## 検討の内容

### フォーラムでの意見集約（詳細は、資料 2 - 1）



### CCセンターの取組についてヒアリング、推進員との打ち合わせ



## 報告案

### 報告案 1 区民の環境に対する意識の向上について

#### ○取り組む動機づけとなるような講座や勉強会の実施

家庭からのCO2削減を行っていくためには、まず取組の主体となる区民の意識向上を図り、具体的に取り組む動機づけとなるような、講座や勉強会などを実施する必要がある。

#### ○効果がわかる（効果が見える）取組の実施

取組を実施する動機づけとするために、講座等の内容は、家庭で取り組みを行うとどういった効果があるかを学ぶことや、体験しながら効果が学べるような取組を実施することが必要である。

（取組例）身近な生活の中でどのような事を実施すれば、どの程度のCO2を削減できるか取組事例の紹介や、家庭でどの程度環境負荷が発生しているかを記録する環境家計簿など具体的に数字に示せる取組を実施する。

#### ○継続的な取組について

家庭や地域で広げていくためには、区民一人一人の意識向上が必須なため、**環境の取組を実施する動機づけとなるような講座や、効果が見える取組**を継続的に実施する必要がある。



### 報告案 2 多様な主体が連携した啓発について

#### ○専門的な知識を持つ各団体が連携した取組の実施

効果的な環境に対する取組を実施していくには、温暖化対策ノウハウを持つ、推進員、市民活動団体、事業者、行政が連携して実施していく必要がある。多様な団体が連携をして取組を実施することで、団体同士の連携が活性化されていく。

#### ○CCセンターとの連携について

CCセンターは、各団体と協力して温暖化防止に向けた実践活動や普及啓発活動を支援、推進する目的で設置されている。そのため、推進員、市民活動団体、事業者、行政など、それぞれが持つノウハウを効果的に発揮していくためには、CCセンターの**支援**が必要である。

